（独立行政法人教職員支援機構委嘱事業）

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

実 施 報 告 書

プログラム名	**地域協働プロフェッショナル教員研修プログラム**
プログラムの特徴	学校と地域が、育てたい子ども像や学校運営の目指す方向を共有したあと、実際どのように授業や教育課程、地域活動に落としていくのが良いのか、その方法やプロセスに対する示唆を高める。

平成 30年 3月

実施機関：株式会社ノースプロダクション
住所：北海道十勝郡浦幌町字宝町53-26
TEL：015-576-4678

協力：特定非営利活動法人みらいずworks、北海道教育大学釧路校

プログラムの全体概要

[社会に開かれた教育課程・教育活動をつくるワークショップのプロセス]

ビジョンづくり

STEP.1 学校と地域が協働する意義を理解する

- 講義「地域と学校が協働する社会的背景や目的」
- ワークショップ
  「協働をさらに推進するために、壁になっていること」

ゴール
- ○地域と学校の協働の必要性を理解する

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター

STEP.2 目指すビジョンを共有する

- ビジョン共有「育みたい子供たちの姿とは」
- 困りごとや課題の共有

ゴール
- ○地域と学校の協働によるビジョンを共有する

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター
- 地域の方

STEP.3 社会に開かれた学びを考える

- ファシリテーション演習
  「○○地域の子供たちにどんな学びが必要なのか」
- ペアインタビュー
  「これからどんな教員をめざしていきたいか」

ゴール
- ○主体的・対話的で深い学びのためのファシリテーション能力を高める
- ○ビジョン達成のために必要な学びを明らかにする

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター
- 地域の方

授業づくり

STEP.4 地域資源を教材化する

- 地域資源、協力できることの抽出
- 地域資源の教材化アイデア出し

ゴール
- ○地域資源や地域課題を発見し、教材化する視点を高める
- ○地域資源の発掘と協働に向けたネットワークをつくる

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター
- 地域の方

STEP.5 地域協働による授業を考える

- 地域と協働する授業デザイン
  「子どもたちの力を育むために、
  地域課題や資源を素材とした活動をつくる」
- グループ検討「プログラムのブラッシュアップ」

ゴール
- ○地域協働による授業をデザインする能力を育む
- ○コーディネーションするために必要な視点を得る

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター

STEP.6 授業を実施する

- 授業やプロジェクトを実施する。
- 基本は公開授業として、お互いに見て、フィードバックしあう

ゴール
- ○地域協働による授業を運営する力を高める

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター
- 地域の方

カリキュラムづくり

STEP.7 実践から学ぶ

- グループに分かれ、フィードバックしあう
- 今後の改善点やアイデアの共有

ゴール
- ○お互いに学び合う関係性を育む
- ○授業をさらによくしていこうとする意欲や今後の見通しがもてるようになる

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター
- 地域の方

STEP.8 カリキュラムに落とし込み、社会に開かれた教育課程を設計する

- 学校目標の確認と手の打ちどころの検討
- グループ検討
  「スタンダード10の作成」

ゴール
- ○社会に開かれた教育課程をつくるためのカリキュラム・マネジメントに必要な考え方を学ぶ

参加者
- 教員
- 地域教育コーディネーター

STEP.9 カリキュラムマネジメントをするための仕組みをつくる

- ワークショップ
  「カリキュラムをどのように実現し、マネジメントしていくか」

ゴール
- ○社会に開かれた教育課程をつくるためのカリキュラム・マネジメント能力を高める

参加者
- 教員（管理職も）
- 地域教育コーディネーター

Ⅰ　開発の目的・方法・組織

１ 開発目的

学校と地域が、育てたい子ども像や学校運営の目指す方向を共有したあと、実際どのように授業や教育課程、地域活動に落としていくのが良いのか、その方法やプロセスを明らかにすることが本件の目的である。地域と学校の協働についてその意義を理解できずにいる教員も多くおり、その現状が負担感や形骸化につながっているのではないかと考えた。このままでは、コミュニティ・スクールが全国各地で立ち上がっても形骸化してしまうのではないかという危機感から、この研修開発をはじめた。

２ 開発の方法

特定非営利活動法人みらいず works　小見まいこ、北海道教育大学釧路校の宮前耕史先生らと共に約 1 年間、打合せを行い、形にし、実際に実施をして、開発をした。

開発したモデルプログラムは、北海道浦幌町にて実践をした。町内の浦幌小学校、浦幌中学校、上浦幌中央小学校、上浦幌中学校　4 校のコミュニティ・スクール担当の管理職や教員、浦幌町の学校に赴任してからの経歴が長くない教員、加えて、地域住民やコーディネーター、総勢約 20 名の方々を対象に実施した。

３ 開発組織

株式会社ノースプロファクション　近江正隆
特定非営利活動法人みらいず works　小見まいこ、本間莉恵
北海道教育大学釧路校　　宮前耕史、半澤礼之

Ⅱ 開発の実際とその成果

第１回「学校と地域が協働する意義を理解する」

日時：2017 年 6 月 13 日（火）15:30～16:30（60 分）
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：学校と地域が協働する意義を共通理解するとともに、教員のニーズを把握する
参加者：7 名（浦幌小学校、浦幌中学校）

プログラム
15：30　オリエンテーション(5)
15：35　チェックイン（10）
今の気持ち/参加の動機
15：45　ミニレクチャー
「なぜ、今学校と地域が協働する必要があるのか」(15)
16：00　ファシリテーション・グラフィックによる情報共有（20）
「学校と地域の協働を推進するために、乗り越えたい壁とは何か？」
16：20　今日の気づき感想、今後の研修に活かしたいこと・学びたいこと（10）
16：25　振り返り
16：30　終了

冒頭、参加者から、参加の動機と期待することを伺い、ファシリテーション・グラフィックで可視化し共有した。

ミニレクチャーでは、これからの教育を取り巻く環境の変化、それに伴い育てるべき力について、これまで浦幌町が進めてきたふるさと学習における学校と地域の協働について、ノースプロダクション近江より話をした。

「学校と地域の協働を推進するために、乗り越えたい壁とは何か？」をテーマに、意見出しを行った。時間の確保や多忙感という声や、ゴールの共有化や、取り組みの整理、明確化などが上がった。

＜学校と地域の協働を推進するために乗り越えたい壁とは何か？＞　一部抜粋

・ゴール・狙いを共有する
　…なんのための協働なのかを明らかにする
　…教員同士の話し合いの場をどう持つか
・カリキュラムが複雑
・取組みの整理
　…横断化
　…小学校 6 年、中学校 3 年時のゴールの明確化
・時間がない
　…話す、相談する時間の確保が難しい
　…授業の時間数の確保が難しい
　…新しいことをするには時間がかかる
　…やることが多すぎる
　…誰がどこまで請け負い実行するのか
・学校・地域の負担感が大きい

第２回「目指すビジョンを共有する」

日時：平成 29 年 7 月 24 日（月）13:00〜16:00（180 分）
対象：浦幌町　小学校、中学校教員　7 名
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：浦幌町の子どもたちの育ってほしい姿を地域住民と共有する
　　地域にある教育資源を探り、それらを活用した学びのアイデアの発想が生まれる

プログラム
13:00　オリエンテーション(10)
13:10　グループゲーム（10）
　　・連想イラストゲーム
13:20　ビジョン共有(40)
　　・アンケートゲーム「浦幌の子どもたちがどう育ってほしいか」
　　・メモ用紙に書く
　　・無作為に読み上げる
　　・模造紙に書き、全体像を共有する
14:00　先生の困りごと共有(30)
　　グループトーク「学校の課題や教員の困りごと、また子どもを取り巻く地域の課題」
　　・どんどん意見を言い合うが、地域の方は、聞き役にまわる
14:30　休憩(10)
14:40　地域資源マッピング（70）
　　「地域の人的物的資源を書き出す」
　　・先生たちが浦幌のバスツアー等で知っていることを付箋紙に書き出し、地域の方が補足する形で、地域資源や課題を書き出す
　　・地図に張り出す
　　・地域資源を掛け合わせるとこんなことができそうだというアイデアを考える
15:50　チェックアウト
16:00　終了

連想イラストゲームの様子。テーマを「浦幌町」として、地域の名物や自然などを絵で書いて当てた。

ビジョン共有では、「浦幌の子どもたちがどう育ってほしいか」をテーマに意見を出し合った。

＜浦幌の地域資源 MAP>

・木材、ペレット

…浦幌はかつて林業の町だった。まちの 75%は今も変わらず森林。現在は林業関連の会社は 3 社。

・元木一彦さん

…「うらモン GO」野菜を収穫して、廃材で窯をつくるなど CS の活動をしてくださっているアツイ人。

・留真温泉

…一本道をクラクションを鳴らしながら行くのは昔ながら。お肌がツルツルになる。

・炭鉱

…昔は学校、病院等なんでもあった町があった。ラピュタのように世界で想像力が膨らむ場所。

・厚内の漁業

…昔はアメリカ軍人が済んでいた。漁師町の文化が今もある。

・昆布刈展望台

…日の出、星がきれい。パラグライダー体験もできる。

第３回「これからの学びを考える」

日時：平成 29 年 7 月 25 日（火）13:00～16:00（180 分）
対象：浦幌町　小学校、中学校教員　7 名
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：浦幌町の子どもたちや地域の未来のために、自分自身のあり方やこれからの学びについて考える
　　これからの学びをつくる上で大切なファシリテーターとしてのマインドやスキルを身につける

プログラム
13:00 オリエンテーション(10)
　・今回のプログラムを説明する
13:10 チェックイン（5）
　・24 時間以内の GOOD&NEW
13:15 うらスタの紹介(15)
　・うらスタの取り組み紹介と 9 年間の流れ
　・ボトムアップでつくってきた歩み
　・今の課題
13:30 シェアドビジョン（30）
　・未来視点で具体的に考える
　・付箋紙を貼ったら、いいねマークをつける
14:00 ３人インタビュー(35)
　「ビジョンを実現していくため、これからどんな教員を目指していきたいか」
　・３人一組
14:35 休憩(10)
14:45 ファシリテーション・グラフィック（45）
　「浦幌の子どもたちにどんな学びが必要なのか」
　・ファシリテーター、ライターを決める
　・ポイントを収束する
15:30 ファシリテーションについてのミニ講義（15）
　・主体的・対話的で深い学びへとつながるファシリテーションの考え方を学ぶ
15:45 チェックアウト
16:00 終了

昨日の成果を振り返りながら、24 時間以内の GOOD＆NEW で一声あげていく事で、プログラム参加への準備が出来た。

うらほろスタイルの近江から、うらスタの取組みやこれまでの経緯について話をした。

＜シェアドビジョン＞

＊子ども
・自分で進路を決めて進んでいく子
・教員志望の子どもが増えている
＊保護者
・先生と保護者の関係が良くなる
＊先生
・目的を共有、力を合わせて指導できる
・浦幌に行きたいと思う先生が増えている
＊授業
・おもしろい授業。炭坑や農業でやりたい
＊学校
・元気に登校、真剣に学び、笑顔で下校
・高校復活
＊地域
・今よりももっと顔見知りが増える
＊浦幌町
・浦幌の教育が先進的で魅力的になる
＊社会
・安心安全な社会になっている

3人インタビューで、私のありたい教師像を語った。
ファシリテーションの「聴く・書く・話す」の練習になった。

ファシリテーション・グラフィックでは、グループになり、ライター、ファシリテーターを決めて模造紙に書きながら話し合いを進めた。

＜浦幌の子どもたちにどんな学びが必要なのか？＞

第４回「地域協働による授業をつくる」

日時：平成 29 年 7 月 26 日（水）13:00～16:00（180 分）
対象：浦幌町　小学校、中学校教員　7 名
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：地域と協働する授業をプランニングし、実際にやってみようという機運が高まる
　　地域と協働する授業の流れとそのために必要なことが明らかになる

プログラム
13:00 オリエンテーション(5)
13:05 チームビルディングゲーム（15）
13:20 地域と協働する授業プランニング(40)
　・授業のプランニングシートに基づき、授業を考える
14:00 実行するために必要なことの洗い出し（30）
　・授業をする上で必要な流れ、タスク、人材、調整など必要なことを洗い出す
14:30 グループでブラッシュアップ(40)
　・ペアかグループでアドバイスや意見交換をする
15:10 個人で練り上げ(15)
15:30 今後の進め方について共有（15）
　・授業公開やふりかえり会など参加者のみなさんと検討する
15:45 チェックアウト
16:00 終了

チームビルディングゲームでは、うそつき自己紹介をして、お互いの子どもの頃のことなど、普段では知り得ない一面を知り合った。
笑いもあり、ぐっと距離が縮まった。

地域資源を活用した単元構成を考えたのち、その中の１つの授業のプログラムデザインを考えた。

似たテーマでグループ分けをし、授業プログラムを共有し、お互いの経験などに基づきアドバイスしあった。

地域と学校のコーディネートをする教頭に、アドバイスにあたり、地域資源の活用や地域との協働におけるポイントを様々な観点から紹介して頂いた。

＜教育プログラムデザインシート一例＞

＜3 日間の学び＞
・3 日間参加してみて、今日行ったプログラムシートでの授業づくりが一番の集大成だったと感じている。漠然と思っていたイメージを共有し、ファシリテーションでさらに意見を見える化してまとめることができた。具体的に授業で「地域を活用してどんなことができるか」という段階を踏んだ研修を通して、自分の中で１つ形ができた気がした。
・地域との協働は、やらされ感があった。しかし、教育プログラムデザインシートに書き込むことで、「自分は何をやりたいのか」自分の考えを整理し、いつ、どんなことをやれば良いのか具体的にイメージをつくることができた。自分の迷い、自信のなさがあったが、自信がついてやる気が出てきた。
・アドバイスをもらうことで、自分では想いつかなかった視点の考え方を知ることができ、より具体的に考えることができた。浦幌の地域の特徴を知ったので、積極的に活用していきたい。
・ペアワークで自分では想いつかなかったアイデアをもらえて良かった。これからは、気軽に授業案を相談し、わくわくしながらアイデアを出す時間をつくっていきたい。

第５回「地域協働による授業のふりかえり」

日時：2017 年 12 月 25 日（月）13:00～14:00（60 分）
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：
地域協働による授業の可能性や課題を明確にし、授業をブラッシュアップする視点を得るとともに、地域協働による授業をさらによくしていこうとする意欲を高める
身に付けたいこと：
・地域協働による授業のデザインやコーディネートの要点を確認する
・お互いに学び合う、相談しながらつくる関係性を構築する
参加者：7 名（浦幌小学校、浦幌中学校、上浦幌中央小学校、上浦幌中学校）

プログラム
13:00　オリエンテーション
　　・ねらいや流れの説明
　　・今までのステップのふりかえり
13:10　グループに分かれ、実践の報告とフィードバック
　　・実践した先生は、やってみての感想や気づき・学びを紹介する（5 分ずつ）
　　・実践をしていない先生や聞き手の方は、以下を付箋紙に書く（3 分ずつ）
　　①課題だと思ったこと、疑問点を質問形式で
　　②発表者によかったこと、アドバイス、共感したこと　愛を込めて！
　　・付箋紙に書いたことを発表する（2 分）
　　・発表者は、最期に一言（2 分）
14:00　終了

授業プログラムシートを基に、実践した活動を写真や、児童・生徒が作成した成果物を基に、共有。

「林業の学習を実施したが、来年度、職場体験でもお世話になるので、もう少し来年度も意識して内容の深まりをつくれればよかった」「成果発表の場が、生徒の学びの深まりや、地域の方の達成感が作り出せるかどうかのカギだと思った」など、の意見がでた

小学校、中学校合同で成果を共有することで、互いの取り組みが分かり、いい機会になったという声もあがった。

第６回「カリキュラムに落とし込み、社会に開かれた教育課程を設計する」

日時：2017 年 12 月 25 日（月）14:00〜16:00（120 分）
場所：浦幌町中央公民館
ねらい：地域学習を中心としたカリキュラム・マネジメントに必要な考え方をワークを通して学ぶ
身に付けたいこと：
・ふるさと学習で育つ生き抜く力の定義や考え方を共有する
・9 年間を見通したカリキュラム・マネジメントの視点で、教育活動をつくる視点を養う
参加者：7 名（浦幌小学校、浦幌中学校、上浦幌中央小学校、上浦幌中学校）

プログラム
14:00　たくましく生き抜く力とは？
14:10　ふるさと学習総合パンフレットの作成の経緯と説明（白井教頭より）
14:20　学園カリキュラムについてのグループ検討
①学園目標：たくましく生き抜く力 or 将来を切り拓く力とはどんな力か？イメージを共有する
②その力を当該学年では達成できているだろうか？
点数をつけて、その理由や背景を掘り下げて考える
③たくましく生き抜く力を育むために、
9 年間一貫して取り組むスタンダード 10（観点）を検討する
15:40　発表、意見交換
15:50　一言ふりかえり
15:55　アンケートの記入
16:00　終了

ふるさと学習総合パンフレットの作成の経緯と説明をし、これまでの浦幌町としての取り組みを共有した。その後、学園目標に照らし、各学年で到達するべき児童・生徒像や達成のための取組みを確認した。

学園目標に対して、児童・生徒の現状やその背景を確認しあい点数化、共有した。

児童・生徒の現状を、背景も深堀りしながら話し合った。

たくましく生きぬくカって?
5.6～中2までの接続の問題だね?
ねらいを見直していく
小6と中3がかぶってる!? ふるさとを愛し＝小1～6
小5と中1もかぶってる!? たくましく生きる＝中1～3
他の人と折り合いをつける力
社会に変化に応じて
学年の状況やカラーに応じて
自己コントロール
自分の力でもがき合う力
困難に向かって何らかの手段を使って解決できる力
自立していく力
自分1人でも生活できる
問題発見・解決する力

将来を切り拓く力
自分の意見が言える
発信・行動につなげる
困った時に自分で乗り越える
自分で課題設定する力
親の目を気にする
いいものもってるのに出せない
レールがひかれている
親のバックで子のバックで
道の駅
上中レストランでは

新しいことにチャレンジしよう!
RPDSAサイクルは子どもたちも先生方も成長に!
1人で外に出よう
スタンダード10
たくましく生きぬく力を育むために
自分の想いを実現する力
失敗を経験する
自分の意見を表明する機会をつくる
外部との関係性をもたせる
自主的な活動を組織
自分で課題設定をする
自分自身に向きあう

9 年間一貫して取り組むスタンダード 10（観点）を検討した。両学園のものを発表しあった。

【浦幌学園】
＜たくましく生き抜く力の一例＞
・社会の変化に応じて、問題を発見・解決する力
・他者と折り合いをつける力
・自己をコントロールし、自立していく力

＜社会の変化に応じて課題を発見・解決する力を育むためのスタンダード 10 の一例＞
・小・中学校の接続を意識する
・9 年間の活動、それぞれの学年のねらいを共有する
・中学校 3 年次のまちの活性化案に向けて、系統立てて計画をする、それを視点にふりかえる
・総合のまとめの前に地域の大人に発表してブラッシュアップする機会をつくる
・ふるさと学習と教科のつながりを意識する
・よかった点や改善点を次の年の担当者へ引き継ぐ

【上浦幌学園】
＜将来を切り拓く力の一例＞
・自分の意見が表現できる力
・支え合うことができる力
・課題を設定する力

＜将来を切り拓く力を育むためのスタンダード 10 の一例＞
・失敗を経験させる
・一人で解決できない課題を出す
・自分の意見を声に出す機会をつくる
・外部との関係性を持たせる
・自主的な活動を組むなど、自分で課題設定をする

第７回「カリキュラム・マネジメントをするための仕組みをつくる」

日時：2017 年 12 月 26 日（火）13:00～15:00（120 分）
会場：浦幌町中央公民館
ねらい：地域学習を中心としたカリキュラム・マネジメント能力を高める
身に付けたいこと：
・教員の声を活かしながら、学園や学校としてカリキュラムを実用化する具体的なプランを考える
・カリキュラムを実現するために必要な環境を整備する必要性を実感する
参加者：6 名（浦幌小学校、浦幌中学校、上浦幌中央小学校、上浦幌中学校）
特別講師：大正大学　浦崎太郎　氏

プログラム
13:00　オリエンテーション
　・そもそも地域協働 P の趣旨説明
　・アイスブレイクゲーム
13:10　これまでの研修内容の説明と振り返り
　①そもそもなぜ社会に開かれた教育過程なのか、背景について（浦崎先生より）
　②7 月からの簡単な流れの紹介
　③ふるさと学習総合パンフレットの作成の経緯と説明
　④前日の研修の内容共有（先生方の声）
14:00　全体検討「どう 9 年間で管理職として実現していくか、どんな条件整備をするのか」
　・感想共有
　・教育課程に落とし込むための課題は何か？
14:25　上浦幌学園と浦幌学園に分かれて、作戦会議
　・上浦幌学園：9 年間の流れパンフをどう小中で浸透させていくか
　・浦幌学園：位置付け、会議の内容、人選、スケジュール、進め方のイメージ共有
14:45　一言ふりかえり
15:00　終了

そもそもなぜ社会に開かれた教育課程なのか、背景についてのレクチャー。

学園目標を小中 9 年間見据えてどのように管理職として整備するかについて意見交換。

＜研修の気づき・感想＞

・小中学校のふるさと学習については漠然と知っていたが、今回で中学校の内容を知り、系統立ててカリキュラムが組まれているのだと知ることができた。同時に小中の連携、中 3 のゴールが不明瞭な点など、課題を意識することができた。

・浦幌学園として掲げた目標を今日のように見つめ直し、検討することで改めて子どもたちは何ができていて、何ができていないか考えることができた。PDCA の重要性にも気づいた。
・小学校での素敵な実践を聞くことができた。目的・目標の大まかなおさえ方が整理されていないと改めて感じた。
・自分自身が話し合いの中で振り返り、子どもにとって何が大切か確信することができた。

＜今後に活かしていきたいこと＞
・9 年間の活動や学園目標を日々意識して教育活動に取り組みたい。
・たくましく生き抜く力という抽象的な言葉から子どもたちの様子と照らしあわせて、必要なことを洗い出して考えていけたので、少しでもその力がつくようにしていきたい。
・学校の中（校内間）と小・中学校間の接続をどうするのか考えたい（情報共有の仕方など）
・子どもたちのふるさと学習の受けとめ方なども確認したいと思った。
・将来を切り拓く力とは、先ずは自分の考えを言えることが大事で、日々の教育活動の中でも、1 日一回は自分の考えを言う機会を持たせることをしていきたい。

＜全体を通して、自分自身の考え方や行動が変わったこと＞
・地域の素材発掘がとてもよかった。実際に来てくれた地域の方ともつながり、授業の協力をしてもらった。
・ふるさと学習の小学校 1～中学校３年生までの位置づけやねらいがわかって、今後の協働や活動に活かしていきたいと思う。
・自分一人では思いつかなかった協働のアイデアを考えられた。それを教育プログラムデザインシートで具体的に考え、形にできたのもよかった。他教科との横断や連動の視点も盛り込んで考えられた。
・浦幌地域の子どもたちの 9 年間を見通すことで、視野が広がった。教科横断することの必要性も腹落ちした。

III 連携による研修についての考察

＜連携を推進・維持するための要点＞
・北海道浦幌町を開発したプログラムのモデル実施地にした。現地の教育委員会事業や学校のコーディネートに携わる株式会社ノースプロダクション、浦幌を教員養成課程の実習地にし、事例研究もしている北海道教育大学釧路校、新潟県を拠点に教育プログラムを開発・実施する特定非営利活動法人みらいずworksの3社による連携にてプログラムを開発した。事業推進では、当然ではあるが、最初にビジョンや達成目標を熟議により共有した後、役割分担やスケジュールを明確にすること、SNSを活用して頻繁に連絡を取り合うことが連携事業を円滑に進める上での要点であった。

＜連携により得られる利点＞
・現地コーディネートや調整は、ノースプロダクション。プログラム開発や運営は、みらいずworks。評価や総括は、北海道教育大学釧路校とそれぞれの得意分野を存分に活かすことができた。加えて、現地での教員のキーマンにもチームに入ってもらうことで、実際に現場にて実施可能な、学校現場で使えるプログラムを開発することができた。

＜今後の課題等＞
・開発したプログラムやその要点を伝えるリーフレットをいかに活用・普及していくかが大きな課題である。作成したリーフレットは、47都道府県の教育委員会や主要な市町村教育委員会には配布済みである。行政が主催する教員研修のプログラムやコミュニティ・スクール立ち上げ時のワークショップ等に導入してもらうことを期待している。そのためにも、文部科学省や国立教育政策研究所社会教育実践研究センター等にも発信や活用のお願いをするとともに、今後も引き続き、普及活動を展開していく予定である。

IV その他

[キーワード]
地域と学校の協働、コミュニティ・スクール、カリキュラム・マネジメント

【問い合わせ先】
株式会社ノースプロダクション
〒 089-5601
北海道十勝郡浦幌町字宝町 53-26
Tel： 015-576-4678　Fax： 015-576-3772

特定非営利活動法人みらいずworks
〒950-2044
新潟県新潟市西区坂井砂山2-18-2
Tel&Fax　：　025-211-8383